

文=五月女善重
(五月女総合プロダクト)

いい人でいさせて

取引業者とトラブルがありました。

「サオトメ社長と契約書を交しています」と言い張る業者に、僕の代理で対応した社員Aは困惑したのですが、よく調べると先方のミスが発覚。分が悪くなった業者は「後ほど対応策を連絡します」と言ったきり、音信不通になったのです。

怠慢に憤慨したAが先方にメールを送りました。CC欄に僕のアドレスもあり、Aの怒りがメールから直に伝わります。その文面を見た僕は、Aの立腹とは裏腹

にスーッと楽になり、とても穏やかな気持ちになっていったのです。

以前、僕が業者対応していた時は、納得が行かないと即座に電話を掛け、とことん問い詰めていました。先代の前でも先方の不手際をあげつらい、「まったく！」と息巻いていたのです。そんな僕を、先代は「相手にも事情があるんだよ」と静かに諭すので、拍子抜けした気分になったものです。

「最初から契約書など交していないのに

社長が悪者扱いされて…許せないんです」

憤るAに「まあまあ、いいじゃないか」と言いながら、先代と同じ言動をしている自分にハッとしました。自分の代わりに怒ってくれる者の存在が、とても頼もしいことに気付いたのです。

好きこのんで他人を叱る人は滅多にいないでしょう。僕もトップダウンで毎日ガミガミしていたころは、怒鳴った後のモヤモヤが拭い切れず、常にストレスフルで最悪の精神状態でした。叱りつばなしでは部下のモチベーションも下がりますからフオーも必要です。

「怒る・叱る」というのは、傍から見るより非常に労力の要る行為なのです。

「とか弁」という言葉があります。

「散歩行く?」と言うところを「散歩とか行く?」と「とか」を入れ、あいまいに表現することを指します。文化庁の調査で「○○さんと話とかしました」という使い方をするか質

問したところ、

若者の半数は「する」と答えた

そうです。文化

庁は「若者にあいまい語が多いのは、対人関係の衝突を避ける願望の表れ」と分析しています。

昨今、叱れない管理職が増えているのは、「対立するのは面倒臭い」という心理

が働くからでしょうか。「相手の良いところを見なさい」と言う人がいますが、「良いところを見る」を盾にして叱りもせず、いい人を気取る管理職が多いほど、組織の規律は乱れるように思います。

今回の一件も、Aが「いい人」になって怒らなければ、僕が怒る羽目になったでしょう。しかしAが代弁してくれたお陰で、僕は怒りという精神的負荷を回避でき、逆に冷静になれたのです。

もちろん部下に犠牲を強いるのではありませんが、結果としてAは「社長のために」と負担を引き受け、自己犠牲を厭わず、僕を「いい人」としてシンボル化してくれたのです。それは組織を守るためにとっても重要なことだったと思います。

いい人でいさせてくれる部下を持つことも、僕らの力量なのかもしれません。 [A]



さおとめ・よししげ

五月女総合プロダクト株式会社代表取締役社長。大学卒業後、父親の営む建築資材会社を経て、26歳でホール業界に。釘調整など現場仕事を経験する中で「自分の代になる」という強い意思のもと2000年に屋号をライブガーデンに変更、2003年代表取締役就任。「スタッフが主役の会社づくり」を掲げ、栃木県南部を中心に現在9店舗を経営。1965年生まれ。筆者へのメッセージはホームページから <http://www.saotomesp.jp/>